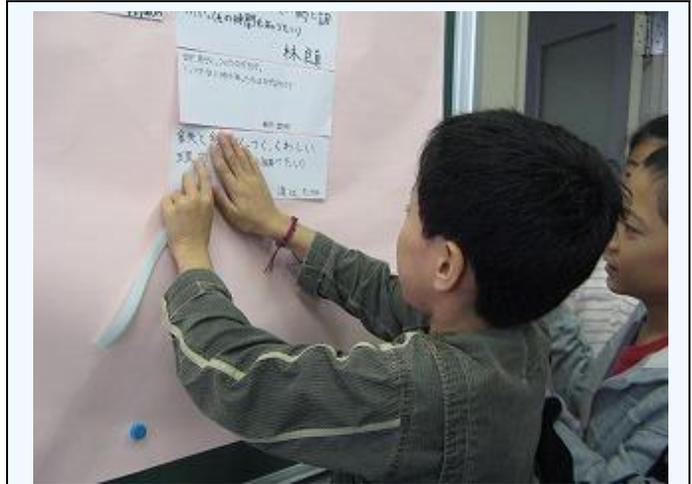


テーマ：『 すすんで身近な自然に親しみ、科学好きの子どもを育む環境教育 』

横浜市立 平戸小学校

Tel. 045-821-2329

担当者： 高橋 浩子



■実践内容:

平戸小学校では、身の回りにある自然環境を整えたり、実験教材の研究を深めたりすることで児童の関心が向くようにと考えた。光電池パネルを設置後、そのエネルギーを利用し太陽エネルギーの存在や利用価値について学校全体に知らせた。児童の目につきやすい所に緑のカーテンをつくり、ビオトープや校庭下にある畑で野菜や稲を栽培する環境の整備を行った。新学習指導要領の移行に伴い、5年時「電磁石」の指導計画を作り、区理科研究会の協力を受けながら教材研究を行った。

■実践成果:

校内に設置されている光電池パネルでできたエネルギーを利用し、ビオトープの循環器を動かしていることを知り、特に4年生は関心をもって学習を進めることができた。

新学習指導要領への取り組みでは、新単元「電磁石」を授業公開した。区の理科研究会において子どもの思考に沿った自力解決するための工夫を話し合い、実験器具を準備した。目に見えないものを推論していくための方法の一つとしてイメージしたことを図に書き表す児童が多かった。事前に様々な方法を試したことで、実験器具として児童にベストなものを一人一つ提供でき、自分の実験を伝えるという考えの深まりにつなげることができたと考え。

■実践ポイント:

児童が「なぜ?」「どうして?」と関心ももてるように環境を整えるようにした。また、児童の思考に寄り添い実験器具を工夫することで疑問を追及していくことの楽しさを味あわせることができたと考え。